

鹿児島女子短期大学

FD・SD 活動報告書 2024

1. 学生による授業評価
2. 授業公開
3. FD・SD 研修会

FD・SD 委員会

1. 学生による授業評価

【趣旨】

本学で、FD 活動の一環として、毎年度前期・後期の学期末に「学生による授業評価アンケート」を実施している。結果の活用法は、2023 年度より大きく変更され、各授業担当教員がティーチングポートフォリオを作成する際に授業改善のための指標として活用されるだけでなく、学生が自由記述として記載したコメントを含め、全アンケート結果を FD 委員会で分析し、全学的に報告したり、FD 研修に活用したりするなどし、授業改善を図っている。

授業評価アンケート について(令和6年度後期)

FD・SD 委員会

1. 後期授業評価 アンケート について

実施期間:1 月 6 日(月) ~ 1 月 31 日(金)

実施方法:Unipa メニュー「授業」内「授業評価回答」機能

対 象 者:各科目履修者

※15 回授業の科目では可能な限り授業内で回答の時間をお取りください。
(回答の時間を取らない場合も回答の依頼をしてください。)

※授業評価第 20 問の回答には当該科目で修得すべき主な DP の内容と番号
を把握する必要があります。本学 HP のカリキュラムマップを参照するよう
指導してください。(学生に対しても Unipa で URL を連絡します。)

URL:<https://www.jkajyo.ac.jp/introduction/disclosure/disclosure.html#map>

2. ティーチング・ポートフォリオへの追加記載事項 について

前期末にご提出いただいたティーチング・ポートフォリオの「成果」欄に、前期に倣って、後期授業評価アンケートに関する記述・評価を追加してください。併せて、「成績の平準化」についても、11 月教授会後に開催された「評価基準の平準化」の内容等を参考に記述願います。「成果」は、学生の学習成果を示し授業の達成状況を把握することが重要ですが、同時にそれを受け、自身の授業の改善点や次年度に向けて省察するための大切な材料となるものです。記載する内容は、他人から評価を受けるためのものではなく、自らの教育活動を改善・創造するものだと思えていただくとありがたいです。

併せて、「カリキュラムポリシーに則って授業が行われたか」について、従来の「授業改善計画」と同様に記述してください。(その際、ご自身の科目の、カリキュラムツリーやカリキュラムマップ上の位置づけをご確認ください。適正なクラス分け、時間割だったかについても書き添えて結構です。)

参考:令和 6 年度授業評価アンケート周知のための教員向け案内文

【実施状況】

2024 年度の授業評価アンケートは、全開講科目で実施され、平均回収率は前期 55.1%(昨年度 61.4%)、後期 53.8%(昨年度 71.6%)、前期・後期平均は 54.5%であり、前年度から大きく減少した。科目ごとで回収率に差があり、最高回収率は 100%、最小回収率 6.7%であった。1 つの授業の履修者数は、実習やキャリアガイダンスを除くと、平均 35 名、最大 84 名、最小 1 名となっている。

【アンケート結果】

以下、今年度の具体的なアンケート結果を提示し、ついて分析結果から見える傾向を考察していく。

2024年度前期終了 管理部署鹿児島女子短期大学事務局 の履修者には以下のイメージで表示されます。

123456789 科目A（教員B）

※【令和6年度前期】授業評価アンケート

※次の質問について5段階で1番近いと思われるものを選んでください。

あなたについて…

1. あなたは授業を何回欠席しましたか。（必須）

☐ 欠席なし ☐ 1回 ☐ 2回 ☐ 3回 ☐ 4回以上

2. あなたは『シラバス』をよく読みましたか。（必須）

☐ 全く読んでいない ☐ あまり読んでいない ☐ どちらともいえない ☐ おおむね読んだ ☐ 十分に読んだ

3. あなたは予習や復習を十分にしましたか（必須）

☐ 全くしていない ☐ あまりしていない ☐ どちらともいえない ☐ おおむねやった ☐ 十分にやった

4. あなたは授業の内容を理解することができましたか。（必須）

☐ 全くできていない ☐ あまりできていない ☐ どちらともいえない ☐ おおむねできた ☐ 十分にできた

5. あなたの受講態度を次の中で評価してください。（必須）

☐ 悪い ☐ どちらかという悪い ☐ どちらともいえない ☐ どちらかという良い ☐ 良い

授業について…

6. 授業は『シラバス』に沿って行なわれましたか。（必須）

☐ 全くそうは思わない ☐ そうは思わない ☐ どちらともいえない ☐ そう思う ☐ 強くそう思う

7. 授業はよく準備されていましたか。（必須）

☐ 全くそうは思わない ☐ そうは思わない ☐ どちらともいえない ☐ そう思う ☐ 強くそう思う

8. 毎回の授業の目標は明確になっていましたか。（必須）

☐ 全くそうは思わない ☐ そうは思わない ☐ どちらとも言えない ☐ そう思う ☐ 強くそう思う

9. 教員の説明は分かりやすかったですか。（必須）

☐ 全くそうは思わない ☐ そうは思わない ☐ どちらともいえない ☐ そう思う ☐ 強くそう思う

10. 発見や感動などがあり、興味の持てる授業でしたか。（必須）

☐ 全くそうは思わない ☐ そうは思わない ☐ どちらともいえない ☐ そう思う ☐ 強くそう思う

11. 教員と学生の間にやり取りがあるなど、授業に活気がありましたか。（必須）

☐ 全くそうは思わない ☐ そうは思わない ☐ どちらともいえない ☐ そう思う ☐ 強くそう思う

12. 教員の声は十分に大きく、明瞭な話し方でしたか。（必須）

☐ 全くそうは思わない ☐ そうは思わない ☐ どちらともいえない ☐ そう思う ☐ 強くそう思う

13. 板書の仕方、パワーポイントの表示の仕方、プリントの用い方は適切でしたか。（必須）

☐ 全くそうは思わない ☐ そうは思わない ☐ どちらともいえない ☐ そう思う ☐ 強くそう思う

14. 始業・終業時間を含め、時間配分は適切でしたか。（必須）

☐ 全くそうは思わない ☐ そうは思わない ☐ どちらともいえない ☐ そう思う ☐ 強くそう思う

15. 教員の熱意を感じましたか。 (必須)

☐ 全くそうは思わない ☐ そうは思わない ☐ どちらともいえない ☐ そう思う ☐ 強くそう思う

16. 教員は、学生に公平に接していましたか。 (必須)

☐ 全くそうは思わない ☐ そうは思わない ☐ どちらともいえない ☐ そう思う ☐ 強くそう思う

17. テキスト、ビデオ、プリント資料などの教材は理解の助けになりましたか。 (必須)

☐ 全くそうは思わない ☐ そうは思わない ☐ どちらともいえない ☐ そう思う ☐ 強くそう思う

18. この授業にとって教室の環境、設備などは適切でしたか。 (必須)

☐ 全くそうは思わない ☐ そうは思わない ☐ どちらともいえない ☐ そう思う ☐ 強くそう思う

19. この授業を総合的に次の5段階で評価してください。 (必須)

☐ 悪い ☐ どちらかというが悪い ☐ どちらともいえない ☐ どちらかというが良い ☐ 良い

20. この授業の主要な到達目標（カリキュラムマップ参照）について、自分の達成度を次の5段階で評価してください。 (必須)

☐ ほとんど達成できなかった ☐ あまり達成できなかった ☐ どちらともいえない ☐ おおむね達成できた ☐ 十分達成できた

21. この授業で良かったと思うことを入力してください。**22. この授業で良くなかったと思う点、改善すべきだと思う点を入力してください。****23. この授業について、教室・施設・設備も含め、不満・要望・その他があれば入力してください。**

これ以降の設問には児童教育学科・生活福祉専攻・食物栄養学専攻の方が対象となる授業のアンケートでのみ回答してください。

※対象授業

■児童教育学科

幼稚園教育実習Ⅱ指導
保育所実習Ⅱ指導
施設実習Ⅰ指導
施設実習Ⅱ指導

■生活福祉専攻

生活支援技術A
経管栄養演習
生活支援技術C
生活支援技術（食・衣）

■食物栄養学専攻

調理学実習基礎
食品学実験
調理学実習Ⅱ
解剖生理学実験
給食管理実習Ⅰ
給食実務演習Ⅰ

栄養指導実習 I
臨床栄養学実習
食品加工学実習

24. 助手・副手は、授業が円滑に行われるよう、担当教員をサポートしていましたか。【対象授業※のみ】

- ☐ 全くそうは思わない
☐ そうは思わない
☐ どちらともいえない
☐ そう思う
☐ 強くそう思う

25. 助手・副手は、学生に公平に接していましたか。【対象授業※のみ】

- ☐ 全くそうは思わない
☐ そうは思わない
☐ どちらともいえない
☐ そう思う
☐ 強くそう思う

26. 実験・実習に使う試薬・食材は漏れなく準備されていましたか。【対象授業※のみ】

- ☐ 全くそうは思わない
☐ そうは思わない
☐ どちらともいえない
☐ そう思う
☐ 強くそう思う

27. 実験・実習に使う機械・物品等が故障・破損した場合に、助手・副手は適切に対応しましたか。【対象授業※のみ】

- ☐ 全くそうは思わない
☐ そうは思わない
☐ どちらともいえない
☐ そう思う
☐ 強くそう思う

28. わからないことがあったとき、助手・副手は寄り添って「わかった」を引き出してくれましたか。【対象授業※のみ】

- ☐ 全くそうは思わない
☐ そうは思わない
☐ どちらともいえない
☐ そう思う
☐ 強くそう思う

29. 授業が時間内に終わるよう、助手・副手は教員と適切に連携を取っていましたか。【対象授業※のみ】

- ☐ 全くそうは思わない
☐ そうは思わない
☐ どちらともいえない
☐ そう思う
☐ 強くそう思う

回答

■ 授業評価集計結果（例示：2024年度前期全体 Universal Passportによる結果表示）

授業評価一覧> 授業評価結果参照

戻る

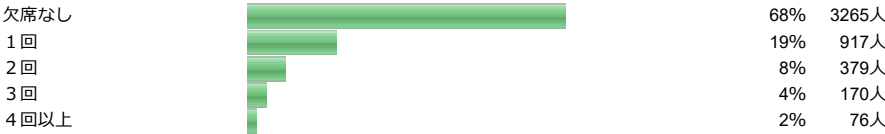
期間：2024/07/08（月） 09:30～2024/09/24（火） 23:59
対象人(延べ数)：8670人 回答人(延べ数)：4807人 回答率 55.4%

※【令和6年度前期】授業評価アンケート

※次の質問について5段階で1番近いと思われるものを選んでください。

あなたについて・・・

1. あなたは授業を何回欠席しましたか。（必須）



2. あなたは『シラバス』をよく読みましたか。（必須）



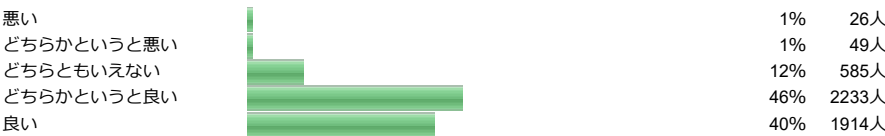
3. あなたは予習や復習を十分にしましたか（必須）



4. あなたは授業の内容を理解することができましたか。（必須）

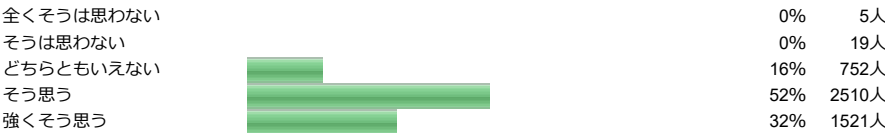


5. あなたの受講態度を次の中で評価してください。（必須）



授業について・・・

6. 授業は『シラバス』に沿って行なわれましたか。（必須）



7. 授業はよく準備されていたか。（必須）



8. 毎回の授業の目標は明確になっていましたか。（必須）



そうは思わない		1%	36人
どちらとも言えない		6%	282人
そう思う		46%	2209人
強くそう思う		47%	2268人

9. 教員の説明は分かりやすかったですか。 (必須)

全くそうは思わない		1%	33人
そうは思わない		1%	54人
どちらともいえない		7%	352人
そう思う		44%	2126人
強くそう思う		47%	2242人

10. 発見や感動などがあり、興味の持てる授業でしたか。 (必須)

全くそうは思わない		1%	31人
そうは思わない		1%	50人
どちらともいえない		9%	423人
そう思う		46%	2190人
強くそう思う		44%	2113人

11. 教員と学生の間にやり取りがあるなど、授業に活気がありましたか。 (必須)

全くそうは思わない		1%	43人
そうは思わない		2%	106人
どちらともいえない		12%	571人
そう思う		44%	2099人
強くそう思う		41%	1988人

12. 教員の声は十分に大きく、明瞭な話し方でしたか。 (必須)

全くそうは思わない		1%	32人
そうは思わない		2%	76人
どちらともいえない		6%	285人
そう思う		42%	2018人
強くそう思う		50%	2396人

13. 板書の仕方、パワーポイントの表示の仕方、プリントの用い方は適切でしたか。 (必須)

全くそうは思わない		0%	22人
そうは思わない		1%	43人
どちらともいえない		6%	311人
そう思う		44%	2119人
強くそう思う		48%	2312人

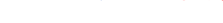
14. 始業・終業時間を含め、時間配分は適切でしたか。 (必須)

全くそうは思わない		0%	13人
そうは思わない		1%	46人
どちらともいえない		6%	300人
そう思う		45%	2176人
強くそう思う		47%	2272人

15. 教員の熱意を感じましたか。 (必須)

全くそうは思わない		0%	19人
そうは思わない		0%	21人
どちらともいえない		5%	242人
そう思う		45%	2170人
強くそう思う		49%	2355人

16. 教員は、学生に公平に接していましたか。 (必須)

全くそうは思わない		0%	16人
そうは思わない		0%	23人
どちらともいえない		5%	227人
そう思う		44%	2104人
強くそう思う		51%	2437人

17. テキスト、ビデオ、プリント資料などの教材は理解の助けになりましたか。 (必須)

全くそうは思わない		0%	20人
そうは思わない		0%	23人
どちらともいえない		5%	253人
そう思う		43%	2073人
強くそう思う		51%	2438人

18. この授業にとって教室の環境、設備などは適切でしたか。 (必須)

全くそうは思わない		0%	7人
そうは思わない		1%	25人

どちらともいえない		5%	243人
そう思う		47%	2237人
強くそう思う		48%	2295人

19. この授業を総合的に次の5段階で評価してください。 (必須)

	比率	人数
悪い	1%	25人
どちらかという悪い	1%	26人
どちらともいえない	6%	294人
どちらかという良い	34%	1637人
良い	59%	2825人

20. この授業の主要な到達目標（カリキュラムマップ参照）について、自分の達成度を次の5段階で評価してください。 (必須)

	比率	人数
ほとんど達成できなかった	1%	27人
あまり達成できなかった	1%	51人
どちらともいえない	11%	515人
おおむね達成できた	58%	2802人
十分達成できた	29%	1412人

21. この授業で良かったと思うことを入力してください。

22. この授業で良くなかったと思う点、改善すべきだと思う点を入力してください。

23. この授業について、教室・施設・設備も含め、不満・要望・その他があれば入力してください。

これ以降の設問には児童教育学科・生活福祉専攻・食物栄養学専攻の方が対象となる授業のアンケートでのみ回答してください。

※対象授業

■児童教育学科

幼稚園教育実習Ⅱ指導
保育所実習Ⅱ指導
施設実習Ⅰ指導
施設実習Ⅱ指導

■生活福祉専攻

生活支援技術A
経管栄養演習
生活支援技術C
生活支援技術（食・衣）

■食物栄養学専攻

調理学実習基礎
食品学実験
調理学実習Ⅱ
解剖生理学実験
給食管理実習Ⅰ
給食実務演習Ⅰ
栄養指導実習Ⅰ
臨床栄養学実習
食品加工学実習

24. 助手・副手は、授業が円滑に行われるよう、担当教員をサポートしていましたか。【対象授業※のみ】

	比率	人数
全くそうは思わない	0%	0人
そうは思わない	0%	0人
どちらともいえない	8%	24人
そう思う	36%	104人
強くそう思う	56%	160人

25. 助手・副手は、学生に公平に接していましたか。【対象授業※のみ】

	比率	人数
全くそうは思わない	0%	1人
そうは思わない	1%	2人
どちらともいえない	8%	21人
そう思う	35%	97人
強くそう思う	56%	155人

26. 実験・実習に使う試薬・食材は漏れなく準備されていましたか。【対象授業※のみ】

全くそうは思わない	0%	0人
そうは思わない	0%	1人
どちらともいえない	7%	17人
そう思う	33%	84人
強くそう思う	60%	150人

27. 実験・実習に使う機械・物品等が故障・破損した場合に、助手・副手は適切に対応しましたか。【対象授業※のみ】

全くそうは思わない	0%	0人
そうは思わない	0%	0人
どちらともいえない	8%	19人
そう思う	35%	89人
強くそう思う	57%	145人

28. わからないことがあったとき、助手・副手は寄り添って「わかった」を引き出してくれましたか。【対象授業※のみ】

全くそうは思わない	1%	4人
そうは思わない	0%	0人
どちらともいえない	6%	17人
そう思う	38%	102人
強くそう思う	55%	148人

29. 授業が時間内に終わるよう、助手・副手は教員と適切に連携を取っていましたか。【対象授業※のみ】

全くそうは思わない	0%	0人
そうは思わない	0%	0人
どちらともいえない	6%	16人
そう思う	40%	109人
強くそう思う	54%	146人

集計結果CSV出力

■ 授業評価集計結果（例示：2024年度後期全体 Universal Passportによる結果表示）

個人情報

授業関連

授業支援

QA/アンケート/掲示

学生支援

キャリア

[ホーム](#) | [メール設定](#) | [サイトマップ](#) | [ログアウト](#)

システム管理

授業評価一覧> 授業評価結果参照

戻る

期間：2025/01/06（月） 09:30～2025/01/31（金） 23:59

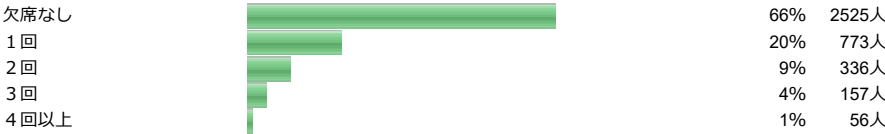
対象人数(延べ数)：7264人 回答人数(延べ数)：3847人 回答率 53.0%

※【令和6年度後期】授業評価アンケート

※次の質問について5段階で1番近いと思われるものを選んでください。

あなたについて・・・

1. あなたは授業を何回欠席しましたか。（必須）



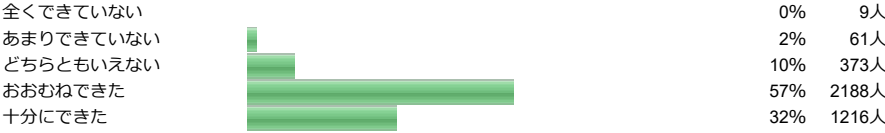
2. あなたは『シラバス』をよく読みましたか。（必須）



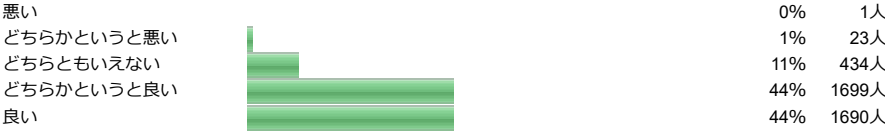
3. あなたは予習や復習を十分にしましたか（必須）



4. あなたは授業の内容を理解することができましたか。（必須）

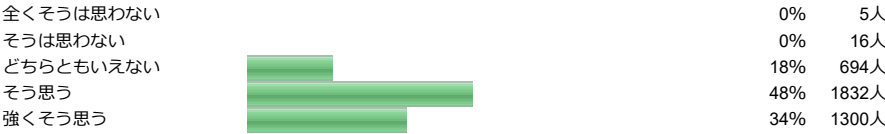


5. あなたの受講態度を次の中で評価してください。（必須）

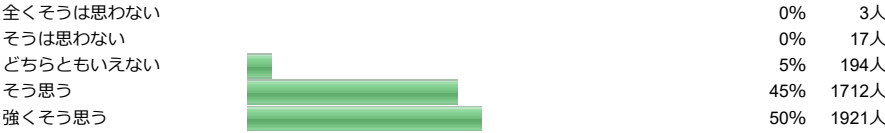


授業について・・・

6. 授業は『シラバス』に沿って行なわれましたか。（必須）



7. 授業はよく準備されていましたか。（必須）



8. 毎回の授業の目標は明確になっていましたか。（必須）



そうは思わない		1%	25人
どちらとも言えない		6%	219人
そう思う		46%	1769人
強くそう思う		48%	1828人

9. 教員の説明は分かりやすかったですか。 (必須)

全くそうは思わない		0%	8人
そうは思わない		1%	41人
どちらともいえない		6%	234人
そう思う		45%	1719人
強くそう思う		48%	1845人

10. 発見や感動などがあり、興味の持てる授業でしたか。 (必須)

全くそうは思わない		0%	10人
そうは思わない		1%	36人
どちらともいえない		7%	263人
そう思う		44%	1709人
強くそう思う		48%	1829人

11. 教員と学生の間にやり取りがあるなど、授業に活気がありましたか。 (必須)

全くそうは思わない		0%	13人
そうは思わない		1%	53人
どちらともいえない		10%	370人
そう思う		45%	1721人
強くそう思う		44%	1690人

12. 教員の声は十分に大きく、明瞭な話し方でしたか。 (必須)

全くそうは思わない		0%	14人
そうは思わない		1%	52人
どちらともいえない		5%	175人
そう思う		42%	1597人
強くそう思う		52%	2009人

13. 板書の仕方、パワーポイントの表示の仕方、プリントの用い方は適切でしたか。 (必須)

全くそうは思わない		0%	9人
そうは思わない		1%	28人
どちらともいえない		7%	255人
そう思う		43%	1673人
強くそう思う		49%	1882人

14. 始業・終業時間を含め、時間配分は適切でしたか。 (必須)

全くそうは思わない		0%	10人
そうは思わない		1%	49人
どちらともいえない		5%	211人
そう思う		45%	1723人
強くそう思う		48%	1854人

15. 教員の熱意を感じましたか。 (必須)

全くそうは思わない		0%	2人
そうは思わない		1%	20人
どちらともいえない		4%	158人
そう思う		43%	1666人
強くそう思う		52%	2001人

16. 教員は、学生に公平に接していましたか。 (必須)

全くそうは思わない		0%	7人
そうは思わない		0%	15人
どちらともいえない		4%	165人
そう思う		43%	1663人
強くそう思う		52%	1997人

17. テキスト、ビデオ、プリント資料などの教材は理解の助けになりましたか。 (必須)

全くそうは思わない		0%	8人
そうは思わない		0%	9人
どちらともいえない		6%	217人
そう思う		42%	1617人
強くそう思う		52%	1996人

18. この授業にとって教室の環境、設備などは適切でしたか。 (必須)

全くそうは思わない		0%	2人
そうは思わない		0%	19人

どちらともいえない		5%	176人
そう思う		45%	1749人
強くそう思う		49%	1901人

19. この授業を総合的に次の5段階で評価してください。 (必須)

	比率	人数
悪い	0%	6人
どちらかという悪い	0%	17人
どちらともいえない	5%	205人
どちらかという良い	36%	1403人
良い	58%	2216人

20. この授業の主要な到達目標（カリキュラムマップ参照）について、自分の達成度を次の5段階で評価してください。 (必須)

	比率	人数
ほとんど達成できなかった	0%	5人
あまり達成できなかった	1%	24人
どちらともいえない	10%	377人
おおむね達成できた	56%	2172人
十分達成できた	33%	1269人

21. この授業で良かったと思うことを入力してください。**22. この授業で良くなかったと思う点、改善すべきだと思う点を入力してください。****23. この授業について、教室・施設・設備も含め、不満・要望・その他があれば入力してください。**

これ以降の設問には児童教育学科・生活福祉専攻・食物栄養学専攻の方が対象となる授業のアンケートでのみ回答してください。

※対象授業

■児童教育学科

幼稚園教育実習Ⅰ指導
保育所実習Ⅰ指導
子どもの健康と安全
乳児保育Ⅱ

■生活福祉専攻

生活支援技術B
喀痰吸引演習
生活支援技術（食・衣）

■食物栄養学専攻

食品衛生学実験
栄養指導実習Ⅱ
応用栄養学実習
給食管理実習Ⅱ
給食実務演習Ⅱ
実践調理学実習
生化学実験A
生化学実験B
調理学実習Ⅰ

24. 助手・副手は、授業が円滑に行われるよう、担当教員をサポートしてましたか。【対象授業※のみ】

	比率	人数
全くそうは思わない	1%	2人
そうは思わない	0%	0人
どちらともいえない	6%	18人
そう思う	42%	135人
強くそう思う	52%	168人

25. 助手・副手は、学生に公平に接していましたか。【対象授業※のみ】

	比率	人数
全くそうは思わない	0%	1人
そうは思わない	0%	0人
どちらともいえない	6%	18人
そう思う	42%	133人
強くそう思う	52%	162人

26. 実験・実習に使う試薬・食材は漏れなく準備されていきましたか。【対象授業※のみ】

	比率	人数
全くそうは思わない	0%	1人
そうは思わない	0%	0人
どちらともいえない	5%	13人
そう思う	39%	102人
強くそう思う	55%	143人

27. 実験・実習に使う機械・物品等が故障・破損した場合に、助手・副手は適切に対応しましたか。【対象授業※のみ】

	比率	人数
全くそうは思わない	0%	0人
そうは思わない	0%	0人
どちらともいえない	5%	14人
そう思う	45%	123人
強くそう思う	50%	135人

28. わからないことがあったとき、助手・副手は寄り添って「わかった」を引き出してくれましたか。【対象授業※のみ】

	比率	人数
全くそうは思わない	1%	2人
そうは思わない	0%	0人
どちらともいえない	4%	12人
そう思う	43%	130人
強くそう思う	52%	159人

29. 授業が時間内に終わるよう、助手・副手は教員と適切に連携を取っていましたか。【対象授業※のみ】

	比率	人数
全くそうは思わない	0%	0人
そうは思わない	0%	1人
どちらともいえない	5%	14人
そう思う	42%	125人
強くそう思う	53%	161人

集計結果CSV出力

【アンケート結果の分析】

1. 過去3年分の比較

授業の欠席回数が、少しずつ増えている傾向がある。具体的には、欠席0回だった学生が7割程度であったのに対し、ここ2年で6割強となり、その分、欠席回数が1～2回の学生の割合が増加している。3回以上の学生の割合には大きな変化は見られない。

授業の内実に関わる項目に目を向けると、授業の準備や活気、理解度など多くの項目で数値の上昇を見ることができる。時間配分や公平性などでも3年分の比較の中で最高値となっている。

一方で、この数値を直接受け止めることは危険を孕んでいる。実施状況で記載したように、今年度のアンケート回収率は例年に比べ大きく下がっており、結果として、受講者80人中78人が回答した結果と、受講者40人中1人が回答した結果が、同様の1つの授業のデータとして扱われ平均化されている。後で見るように、今回のデータには統計的妥当性を担保することはできていない状況となっている。さらに、時間配分や公平さなど、数値が上がった項目でも、複数の科目の授業評価コメントから、学生に改善を要望するコメントが寄せられており、この結果をいかに評価するかは、今後のFD・SDの検討事項となる。

2. 学生からのコメントを受けて

学生のコメント数は授業毎に大きな差があり、最大で合計39件が書き込まれていた一方で、半数以上の授業でコメント数は2件以下であった。

授業でよかった点へのコメントとしては、まさにその授業で教員が工夫している点や、教科への興味関心、教員の人柄に関するものがほとんどであり、前年度報告書記載内容と同様のものが多くみられた。

一方で、授業への改善点として、複数見られたものは、

- ・ 授業の時間配分（教師のスピードについていけない、スライドを流すのが早い、授業時間がオーバーする、振り返りシートを書く時間がない、授業開始時間に遅れることが多い：これらすべてのコメントは複数科目で見られた）
- ・ 学生対応への不公平感（特定の学生に対する態度が優しい or 厳しい（両方見られた））
- ・ 補講を忘れる
- ・ 空調管理（特に寒いという意見が多く見られた）

の4点である。これらは特定の教員に対してのコメントではなく、複数の科目で見られたものであり、意識することで改善できるものであるため、短大全体として受け止めて良い事項かもしれない。

3. 授業評価の方法に関して

今回の授業評価アンケートは例年に比べ回収率が大きく下がった。これまでも教科毎の回収率の差は重要な論点であったが、今回の顕著な低下にどのような要因があるのかを検討する。

前期では、非常勤講師が担当する科目を除く 241 科目中、回答率が 50%以下の科目数は 95 科目、20%以下は 26 科目であった。後期では 191 科目中、それぞれ 86 科目、33 科目となっている。

回答率が高い科目の特徴は、大きく 2 つ見られる。1 つ目は特定の通年にわたって常に回収率の高い教員の科目であり、授業時間内に回収していることが予想される。2 つ目は、採用されてから 5 年以内の教員の科目であり、特に今年度採用された教員の平均回収率は 90%を超えており極めて高い。一方で勤続年数 5 年以内の教員であっても、徐々に回収率が下がる傾向がある。

この背景には、授業評価がルーティンワーク化され、形骸化している状況が読み取れる。形骸化した制度に対し、個々人の努力で改善を図ることは難しい。無論一定数の教員が授業評価を上手に用い、自らの授業実践の PDCA サイクルに落とし込めている姿が見られるものの、すべての教員に個人の努力としてそれを求めるのではなく、より効果的で本質的な授業評価のあり方が問われるターニングポイントに差し掛かっているのかもしれない。

同様に学生にも評価に対する疲れや諦めが見られ、入学以降学期の経過とともに回収率は下がる傾向がある。

回収率を高めることを目指す前に、授業改善につながるという実感を、教員も学生も持ち得るような授業評価の仕組み自体を再検討する必要があるのかもしれない。

■授業評価（全体（前期・後期）結果 2022～2024 年度比較）

2022年度_2023年度_2024年度 前期実施

「学生による授業評価アンケート」集計結果（実施全科目分）比較表

質問項目		年度	各選択肢の回答率(%)						度数	平均値
			0	1	2	3	4	5		
(1)	あなたは授業を何回欠席（公欠も含む）しましたか。	2022	72.4	17.1	5.8	3.3	1.3		7,284	0.4
		2023	69.2	19.7	6.9	2.7	1.4		6,127	0.5
		2024	67.9	19.1	7.9	3.5	1.6		4,807	0.5
(2)	あなたは『講義要項』（シラバス）をよく読みましたか。	2022		4.0	17.9	26.7	39.6	11.7	7,284	3.4
		2023		5.6	16.5	23.7	42.0	12.1	6,127	3.4
		2024		4.4	16.8	22.3	44.0	12.4	4,807	3.4
(3)	あなたは予習や復習を十分にしましたか。	2022		3.6	16.4	31.2	34.8	14.0	7,284	3.4
		2023		5.9	17.0	29.7	33.5	14.0	6,127	3.3
		2024		3.7	16.1	26.8	38.9	14.5	4,807	3.4
(4)	あなたは授業の内容を理解することができましたか。	2022		0.5	3.0	13.5	56.2	26.8	7,284	4.1
		2023		0.3	3.1	13.1	56.6	26.9	6,127	4.1
		2024		0.5	2.2	10.3	57.4	29.5	4,807	4.1
(5)	あなたの受講態度を1～5の5段階で評価してください。	2022		0.1	0.8	14.8	44.2	40.2	7,284	4.2
		2023		0.1	0.9	13.6	45.1	40.3	6,127	4.2
		2024		0.5	1.0	12.2	46.5	39.8	4,807	4.2
(6)	授業は『講義要項』に沿って行なわれましたか。	2022		0.2	0.7	21.1	49.9	28.1	7,284	4.1
		2023		0.1	0.7	17.6	52.2	29.4	6,127	4.1
		2024		0.1	0.4	15.6	52.2	31.6	4,807	4.1
(7)	授業はよく準備されていましたか。	2022		0.2	0.7	6.4	44.9	47.8	7,284	4.4
		2023		0.0	0.6	5.2	45.1	49.1	6,127	4.4
		2024		0.2	0.5	4.5	44.7	50.1	4,807	4.4
(8)	毎回の授業の目標は明確になっていましたか。	2022		0.3	1.0	9.2	46.6	42.9	7,284	4.3
		2023		0.2	0.9	6.9	47.2	44.8	6,127	4.4
		2024		0.2	0.7	5.9	46.0	47.2	4,807	4.4
(9)	教員の説明は分かりやすかったですか。	2022		0.7	2.0	10.1	44.4	42.8	7,284	4.3
		2023		0.3	1.8	8.8	44.6	44.5	6,127	4.3
		2024		0.7	1.1	7.3	44.2	46.6	4,807	4.4
(10)	発見や感動などがあり、興味の持てる授業でしたか。	2022		0.6	1.9	11.0	44.6	41.9	7,284	4.3
		2023		0.2	1.7	9.8	46.5	41.7	6,127	4.3
		2024		0.6	1.0	8.8	45.6	44.0	4,807	4.3

2022年度_2023年度_2024年度 前期実施

「学生による授業評価アンケート」集計結果（実施全科目分）比較表

質問項目		年度	各選択肢の回答率(%)						度数	平均値
			0	1	2	3	4	5		
(11)	教員と学生の間にやりとりがあるなど、授業に活気がありましたか。	2022		0.7	3.0	15.7	44.1	36.5	7,284	4.1
		2023		0.8	3.9	14.9	42.9	37.6	6,127	4.1
		2024		0.9	2.2	11.9	43.7	41.4	4,807	4.2
(12)	教員の声は十分に大きく、明瞭な話し方でしたか。	2022		0.9	2.0	6.6	41.3	49.2	7,284	4.4
		2023		0.3	1.3	7.0	40.4	51.0	6,127	4.4
		2024		0.7	1.6	5.9	42.0	49.8	4,807	4.4
(13)	板書の仕方、パワーポイントの表示の仕方、プリントの用い方は適切でしたか。	2022		0.5	1.2	8.4	44.0	45.9	7,284	4.3
		2023		0.2	0.9	7.1	45.2	46.7	6,127	4.4
		2024		0.5	0.9	6.5	44.1	48.1	4,807	4.4
(14)	始業・終業時間を含め、時間配分は適切でしたか。	2022		0.5	1.6	9.0	45.0	43.9	7,284	4.3
		2023		0.3	1.7	8.1	44.6	45.3	6,127	4.3
		2024		0.3	1.0	6.2	45.3	47.3	4,807	4.4
(15)	教員の熱意を感じましたか。	2022		0.3	0.7	6.9	43.7	48.4	7,284	4.4
		2023		0.2	0.7	6.2	43.4	49.5	6,127	4.4
		2024		0.4	0.4	5.0	45.1	49.0	4,807	4.4
(16)	教員は、学生に公平に接していましたか。	2022		0.4	0.9	6.7	44.8	47.2	7,284	4.4
		2023		0.2	0.7	5.9	44.0	49.2	6,127	4.4
		2024		0.3	0.5	4.7	43.8	50.7	4,807	4.4
(17)	テキスト、ビデオ、プリント資料などの教材は理解の助けになりましたか。	2022		0.3	0.6	6.8	43.1	49.2	7,284	4.4
		2023		0.2	0.5	5.9	43.3	50.2	6,127	4.4
		2024		0.4	0.5	5.3	43.1	50.7	4,807	4.4
(18)	この授業にとって、教室の環境、設備などは適切でしたか。	2022		0.2	0.6	6.7	46.1	46.3	7,284	4.4
		2023		0.1	0.6	5.5	46.2	47.7	6,127	4.4
		2024		0.1	0.5	5.1	46.5	47.7	4,807	4.4
(19)	この授業を総合的に1～5の5段階で評価してください。	2022		0.4	1.2	8.9	35.6	54.0	7,284	4.4
		2023		0.1	0.9	6.6	34.3	58.1	6,127	4.5
		2024		0.5	0.5	6.1	34.1	58.8	4,807	4.5
(20)	この授業の主要な到達目標について、自分の達成度を1～5の5段階で評価してください。	2022		0.3	1.8	17.4	56.8	23.7	7,284	4.0
		2023		0.1	1.9	14.1	57.4	26.6	6,127	4.1
		2024		0.6	1.1	10.7	58.3	29.4	4,807	4.1

2022年度_2023年度_2024年度 前期実施

「学生による授業評価アンケート」集計結果（実施全科目分）比較表

質問項目		年度	各選択肢の回答率(%)						度数	平均値
			0	1	2	3	4	5		
(24)	助手の説明は分かりやすかったですか。【対象授業※のみ】	2022		0.6	0.6	10.0	37.2	51.6	341	4.4
		2023		0.0	0.6	10.4	37.3	51.6	335	4.4
		2024		0.0	0.0	8.3	36.1	55.6	288	4.5
(25)	助手と学生の間にやり取りがあるなど、授業に活気がありましたか。【対象授業※のみ】	2022		0.0	0.3	9.5	33.8	56.4	328	4.5
		2023		0.3	0.6	8.3	38.3	52.5	324	4.4
		2024		0.4	0.7	7.6	35.1	56.2	276	4.5
(26)	助手の声は十分に大きく、明瞭な話し方でしたか。【対象授業※のみ】	2022		0.0	1.2	8.3	31.2	59.3	327	4.5
		2023		0.7	0.0	8.5	32.7	58.1	272	4.5
		2024		0.0	0.4	6.7	33.3	59.5	252	4.5
(27)	助手の熱意を感じましたか。【対象授業※のみ】	2022		0.6	0.6	8.8	35.9	54.1	329	4.4
		2023		0.8	0.0	6.4	34.0	58.9	265	4.5
		2024		0.0	0.0	7.5	35.2	57.3	253	4.5
(28)	助手は、学生に公平に接していましたか。【対象授業※のみ】	2022		0.6	0.3	7.7	34.3	57.1	324	4.5
		2023		0.6	0.3	9.0	35.0	55.0	311	4.4
		2024		1.5	0.0	6.3	37.6	54.6	271	4.4
(29)	授業が時間内に終わるよう、助手・副手は教員と適切に連携を取っていましたか。【対象授業※のみ】									
		2023		0.0	0.0	11.0	37.1	51.9	310	4.4
		2024		0.0	0.0	5.9	40.2	53.9	271	4.5

2022年度_2023年度_2024年度 後期実施

「学生による授業評価アンケート」集計結果（実施全科目分）比較表

質問項目		年度	各選択肢の回答率(%)						度数	平均値
			0	1	2	3	4	5		
(1)	あなたは授業を何回欠席(公欠も含む)しましたか。	2022	63.4	20.9	10.0	4.2	1.5		6,325	0.6
		2023	60.2	21.8	11.3	4.7	2.1		6,136	0.7
		2024	65.7	20.1	8.7	4.1	1.5		3,851	0.6
(2)	あなたは『講義要項』(シラバス)をよく読みましたか。	2022		6.4	16.3	25.9	37.1	14.3	6,325	3.4
		2023		5.1	19.1	24.3	38.4	13.0	6,136	3.4
		2024		6.3	16.6	23.1	40.5	13.5	3,851	3.4
(3)	あなたは予習や復習を十分にしましたか。	2022		4.7	13.1	29.2	36.1	16.8	6,325	3.5
		2023		4.6	15.7	26.9	36.2	16.6	6,136	3.4
		2024		3.9	14.7	26.4	38.4	16.6	3,851	3.5
(4)	あなたは授業の内容を理解することができましたか。	2022		0.5	2.3	12.6	56.3	28.3	6,325	4.1
		2023		0.4	1.8	11.9	54.9	31.1	6,136	4.1
		2024		0.2	1.6	9.7	56.9	31.6	3,851	4.2
(5)	あなたの受講態度を1～5の5段階で評価してください。	2022		0.2	0.8	13.2	46.1	39.8	6,325	4.2
		2023		0.2	0.8	12.1	44.5	42.4	6,136	4.3
		2024		0.0	0.6	11.3	44.1	44.0	3,851	4.3
(6)	授業は『講義要項』に沿って行なわれましたか。	2022		0.2	0.6	18.8	48.5	31.9	6,325	4.1
		2023		0.2	0.4	16.2	48.4	34.8	6,136	4.2
		2024		0.1	0.4	18.0	47.6	33.8	3,851	4.1
(7)	授業はよく準備されていましたか。	2022		0.2	0.9	6.8	45.5	46.6	6,325	4.4
		2023		0.3	0.6	5.6	43.3	50.3	6,136	4.4
		2024		0.1	0.4	5.0	44.5	49.9	3,851	4.4
(8)	毎回の授業の目標は明確になっていましたか。	2022		0.2	0.8	8.8	46.0	44.1	6,325	4.3
		2023		0.3	0.8	7.2	43.9	47.8	6,136	4.4
		2024		0.2	0.6	5.7	46.0	47.5	3,851	4.4
(9)	教員の説明は分かりやすかったですか。	2022		0.5	1.8	10.7	44.3	42.7	6,325	4.3
		2023		0.5	1.4	8.5	43.2	46.4	6,136	4.3
		2024		0.2	1.1	6.1	44.7	48.0	3,851	4.4
(10)	発見や感動などがあり、興味の持てる授業でしたか。	2022		0.4	1.1	11.1	45.4	42.0	6,325	4.3
		2023		0.4	1.2	8.1	43.1	47.2	6,136	4.4
		2024		0.3	0.9	6.8	44.4	47.6	3,851	4.4

2022年度_2023年度_2024年度 後期実施

「学生による授業評価アンケート」集計結果（実施全科目分）比較表

質問項目		年度	各選択肢の回答率(%)						度数	平均値
			0	1	2	3	4	5		
(11)	教員と学生の間にやりとりがあるなど、授業に活気がありましたか。	2022		0.7	2.3	13.6	43.7	39.7	6,325	4.2
		2023		0.7	2.0	11.1	41.8	44.5	6,136	4.3
		2024		0.3	1.4	9.6	44.7	43.9	3,851	4.3
(12)	教員の声は十分に大きく、明瞭な話し方でしたか。	2022		0.6	1.6	7.6	41.8	48.5	6,325	4.4
		2023		0.5	0.9	6.2	40.8	51.5	6,136	4.4
		2024		0.4	1.4	4.5	41.5	52.2	3,851	4.4
(13)	板書の仕方、パワーポイントの表示の仕方、プリントの用い方は適切でしたか。	2022		0.4	1.1	8.7	44.9	44.9	6,325	4.3
		2023		0.4	1.0	7.6	43.2	47.8	6,136	4.4
		2024		0.2	0.7	6.7	43.5	48.9	3,851	4.4
(14)	始業・終業時間を含め、時間配分は適切でしたか。	2022		0.6	1.7	8.2	45.9	43.6	6,325	4.3
		2023		0.7	1.5	6.8	43.3	47.8	6,136	4.4
		2024		0.3	1.3	5.5	44.8	48.2	3,851	4.4
(15)	教員の熱意を感じましたか。	2022		0.3	0.8	7.8	43.6	47.5	6,325	4.4
		2023		0.3	0.6	5.7	41.7	51.7	6,136	4.4
		2024		0.1	0.5	4.1	43.3	52.0	3,851	4.5
(16)	教員は、学生に公平に接していましたか。	2022		0.5	0.8	7.3	44.8	46.5	6,325	4.4
		2023		0.5	0.7	5.6	42.0	51.2	6,136	4.4
		2024		0.2	0.4	4.3	43.2	51.9	3,851	4.5
(17)	テキスト、ビデオ、プリント資料などの教材は理解の助けになりましたか。	2022		0.3	0.6	7.8	44.0	47.4	6,325	4.4
		2023		0.3	0.5	6.2	41.7	51.2	6,136	4.4
		2024		0.2	0.2	5.7	42.0	51.9	3,851	4.5
(18)	この授業にとって、教室の環境、設備などは適切でしたか。	2022		0.2	0.6	7.3	46.2	45.7	6,325	4.4
		2023		0.1	0.3	5.3	45.3	48.9	6,136	4.4
		2024		0.1	0.5	4.6	45.5	49.4	3,851	4.4
(19)	この授業を総合的に1～5の5段階で評価してください。	2022		0.3	0.7	8.9	37.7	52.3	6,325	4.4
		2023		0.3	0.8	6.2	34.5	58.1	6,136	4.5
		2024		0.2	0.4	5.3	36.5	57.6	3,851	4.5
(20)	この授業の主要な到達目標について、自分の達成度を1～5の5段階で評価してください。	2022		0.3	1.4	13.7	58.2	26.5	6,325	4.1
		2023		0.3	1.0	11.4	55.3	32.0	6,136	4.2
		2024		0.1	0.6	9.8	56.5	33.0	3,851	4.2

質問項目		年度	各選択肢の回答率(%)						度数	平均値
			0	1	2	3	4	5		
(24)	助手の説明は分かりやすかったですか。【対象授業※のみ】	2022		0.7	0.8	9.9	44.6	44.0	734	4.3
		2023		0.2	0.2	7.9	37.6	54.1	492	4.5
		2024		0.6	0.0	5.6	41.7	52.2	324	4.4
(25)	助手と学生の間にやり取りがあるなど、授業に活気がありましたか。【対象授業※のみ】	2022		0.6	1.3	12.1	44.2	41.9	718	4.3
		2023		0.6	0.2	5.8	37.3	56.1	483	4.5
		2024		0.3	0.0	5.7	42.2	51.7	315	4.5
(26)	助手の声は十分に大きく、明確な話し方でしたか。【対象授業※のみ】	2022		0.7	0.8	10.4	43.2	44.9	720	4.3
		2023		0.2	0.0	8.0	35.8	56.0	439	4.5
		2024		0.4	0.0	5.0	39.2	55.4	260	4.5
(27)	助手の熱意を感じましたか。【対象授業※のみ】	2022		1.1	1.0	11.0	43.3	43.7	721	4.3
		2023		0.2	0.0	9.8	37.8	52.2	439	4.4
		2024		0.0	0.0	5.1	45.4	49.5	273	4.4
(28)	助手は、学生に公平に接していましたか。【対象授業※のみ】	2022		0.4	0.1	8.6	45.0	45.8	720	4.4
		2023		0.8	0.0	5.9	38.2	55.1	474	4.5
		2024		0.7	0.0	3.9	43.1	52.3	304	4.5
(29)	授業が時間内に終わるよう、助手・副手は教員と適切に連携を取っていましたか。【対象授業※のみ】									
		2023		0.6	0.2	6.4	40.9	51.8	469	4.4
		2024		0.0	0.3	4.6	41.7	53.3	302	4.5

【授業改善について】

各常勤教員はその結果を受け、授業評価アンケートに関する結果、評価、および改善について、ティーチング・ポートフォリオ（以下、TP）に記載し、授業改善の可視化を図っている。助手、および非常勤教員においてはTPを作成していないため、別途授業改善報告書を提出している。提出状況を下記の表に示す。

年度	学期	教員（TP 記載状況）	助手（提出状況）	非常勤教員提出数
2024 年度	前期	100 % (40/40 人)	100 % (5/5 人)	18 人
	後期	100 % (41/41 人)	100 % (5/5 人)	12 人

2023 年度から常勤教員は TP の作成を導入したことで、これまで提出していた授業改善報告書よりも記録が一元化され、改善策の妥当性や背景が読み取りやすくなっている印象であった。TP への授業改善策の記載状況は前期・後期ともに 100%である一方、僅かではあるが（2～4 %）、授業評価アンケート結果との関連が少し読み取りづらい主観的記述も見受けられた。今後はアンケート結果に基づいた具体的な記載を促せるよう、周知内容等の見直し、改善を図りたい。また評価に対する学生へのフィードバック方法も今後の検討課題である。

■授業評価（2024年度：学科別「学習の達成度自己評価」）

2024年度学習の達成度自己評価（全学科一般教養）

一般教養科目DP

- ①主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。
- ②自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。
- ③地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。
- ④社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。

2024年度入学1年生（前期）

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答	①ほとんど達成 できなかった		②あまり達成 できなかった		③最低限 達成できた		④おおむね 達成できた		⑤十分 達成できた	
①	18	179	5.4	1	0.6%	0	0.0%	15	8.4%	75	41.9%	88	49.2%
②	18	291	8.2	4	1.4%	4	1.4%	26	8.9%	161	55.3%	96	33.0%
③	1	56	4.2	0	0.0%	1	1.8%	7	12.5%	30	53.6%	18	32.1%
④	19	145	6.1	2	1.4%	1	0.7%	19	13.1%	76	52.4%	47	32.4%

2024年度入学1年生（後期）

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答	①ほとんど達成 できなかった		②あまり達成 できなかった		③最低限 達成できた		④おおむね 達成できた		⑤十分 達成できた	
①	18	131	4.4	0	0.0%	0	0.0%	8	6.1%	68	51.9%	55	42.0%
②	16	160	4.2	0	0.0%	1	0.6%	14	8.8%	94	58.8%	51	31.9%
③	0	0	0.0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
④	23	190	6.1	2	1.1%	1	0.5%	23	12.1%	104	54.7%	60	31.6%

2023年度入学2年生（前期）

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答	①ほとんど達成 できなかった		②あまり達成 できなかった		③最低限 達成できた		④おおむね 達成できた		⑤十分 達成できた	
①	3	5	3.8	0	0.0%	0	0.0%	1	20.0%	4	80.0%	0	0.0%
②	5	63	4.4	0	0.0%	0	0.0%	1	1.6%	36	57.1%	26	41.3%
③	0	0	0.0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
④	3	24	4.1	0	0.0%	0	0.0%	2	8.3%	17	70.8%	5	20.8%

2023年度入学2年生（後期）

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答	①ほとんど達成 できなかった		②あまり達成 できなかった		③最低限 達成できた		④おおむね 達成できた		⑤十分 達成できた	
①	0	0	0.0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
②	3	91	4.5	0	0.0%	0	0.0%	3	3.3%	35	38.5%	53	58.2%
③	2	37	4.5	0	0.0%	0	0.0%	1	2.7%	18	48.6%	18	48.6%
④	4	8	4.3	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	6	75.0%	2	25.0%

2024年度学習の達成度自己評価（児童教育学科）

児童教育学科DP

- ①（教育・保育に必要な専門性）教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。
- ②（課題解決能力）教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。
- ③（豊かな人間性）教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。

2024年度入学1年生（前期）

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答	①ほとんど達成 できなかった		②あまり達成 できなかった		③最低限 達成できた		④おおむね 達成できた		⑤十分 達成できた	
①	12	864	12.1	8	0.9%	5	0.6%	114	13.2%	529	61.2%	208	24.1%
②	0	0	0.0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
③	5	431	8.0	4	0.9%	3	0.7%	71	16.5%	256	59.4%	97	22.5%

2024年度入学1年生（後期）

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答	①ほとんど達成 できなかった		②あまり達成 できなかった		③最低限 達成できた		④おおむね 達成できた		⑤十分 達成できた	
①	14	1008	4.1	0	0.0%	5	0.5%	127	12.6%	601	59.6%	275	27.3%
②	4	315	4.3	0	0.0%	0	0.0%	25	7.9%	164	52.1%	126	40.0%
③	3	233	4.1	0	0.0%	4	1.7%	39	16.7%	128	54.9%	62	26.6%

2023年度入学2年生（前期）

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答	①ほとんど達成 できなかった		②あまり達成 できなかった		③最低限 達成できた		④おおむね 達成できた		⑤十分 達成できた	
①	23	739	4.3	0	0.0%	5	0.7%	43	5.8%	447	60.5%	244	33.0%
②	10	188	4.3	0	0.0%	2	1.1%	11	5.9%	101	53.7%	74	39.4%
③	2	50	4.3	0	0.0%	0	0.0%	2	4.0%	33	66.0%	15	30.0%

2023年度入学2年生（後期）

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答	①ほとんど達成 できなかった		②あまり達成 できなかった		③最低限 達成できた		④おおむね 達成できた		⑤十分 達成できた	
①	21	371	5.4	1	0.3%	0	0.0%	16	4.3%	187	50.4%	167	45.0%
②	4	32	4.5	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	16	50.0%	16	50.0%
③	3	74	4.3	0	0.0%	0	0.0%	2	2.7%	45	60.8%	27	36.5%

2024年度学習の達成度自己評価（生活科学科：生活福祉専攻）

生活科学科生活福祉専攻DP

- ①（専門的知識・技能）介護福祉及び医療・福祉事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。
- ②（主体的・創造的な課題解決能力）修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。
- ③（人間関係形成力とコミュニケーション能力）倫理観と責任感をもち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。

2024年度入学1年生（前期）

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答	①ほとんど達成 できなかった		②あまり達成 できなかった		③最低限 達成できた		④おおむね 達成できた		⑤十分 達成できた	
①	11	45	3.9	0	0.0%	0	0.0%	9	20.0%	30	66.7%	6	13.3%
②	2	7	4.1	0	0.0%	0	0.0%	1	14.3%	4	57.1%	2	28.6%
③	1	4	3.8	0	0.0%	0	0.0%	1	25.0%	3	75.0%	0	0.0%

2024年度入学1年生（後期）

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答	①ほとんど達成 できなかった		②あまり達成 できなかった		③最低限 達成できた		④おおむね 達成できた		⑤十分 達成できた	
①	11	40	5.7	2	5.0%	1	2.5%	5	12.5%	30	75.0%	2	5.0%
②	4	15	4.1	0	0.0%	1	6.7%	2	13.3%	7	46.7%	5	33.3%
③	1	4	4.3	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	75.0%	1	25.0%

2023年度入学2年生（前期）

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答	①ほとんど達成 できなかった		②あまり達成 できなかった		③最低限 達成できた		④おおむね 達成できた		⑤十分 達成できた	
①	8	64	6.7	3	4.7%	0	0.0%	10	15.6%	50	78.1%	1	1.6%
②	6	46	4.9	1	2.2%	0	0.0%	7	15.2%	33	71.7%	5	10.9%
③	1	8	3.8	0	0.0%	0	0.0%	2	25.0%	6	75.0%	0	0.0%

2023年度入学2年生（後期）

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答	①ほとんど達成 できなかった		②あまり達成 できなかった		③最低限 達成できた		④おおむね 達成できた		⑤十分 達成できた	
①	8	43	4.0	0	0.0%	0	0.0%	4	9.3%	35	81.4%	4	9.3%
②	5	25	4.0	0	0.0%	0	0.0%	4	16.0%	16	64.0%	5	20.0%
③	2	13	3.9	0	0.0%	0	0.0%	2	15.4%	10	76.9%	1	7.7%

2024年度学習の達成度自己評価（生活科学科：食物栄養学専攻）

生活科学科食物栄養学専攻DP

- ①（食物・栄養に必要な専門性）健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。
- ②（課題解決能力）修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。
- ③（豊かな人間性）食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。

2024年度入学1年生（前期）

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答	①ほとんど達成 できなかった		②あまり達成 できなかった		③最低限 達成できた		④おおむね 達成できた		⑤十分 達成できた	
①	14	269	6.0	2	0.7%	17	6.3%	54	20.1%	108	40.1%	88	32.7%
②	1	17	4.1	0	0.0%	0	0.0%	5	29.4%	5	29.4%	7	41.2%
③	2	4	4.0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	100.0%	0	0.0%

2024年度入学1年生（後期）

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答	①ほとんど達成 できなかった		②あまり達成 できなかった		③最低限 達成できた		④おおむね 達成できた		⑤十分 達成できた	
①	11	134	4.1	0	0.0%	4	3.0%	25	18.7%	62	46.3%	43	32.1%
②	3	29	4.3	0	0.0%	0	0.0%	4	13.8%	13	44.8%	12	41.4%
③	0	0	0.0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

2023年度入学2年生（前期）

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答	①ほとんど達成 できなかった		②あまり達成 できなかった		③最低限 達成できた		④おおむね 達成できた		⑤十分 達成できた	
①	8	171	5.1	1	0.6%	5	2.9%	16	9.4%	94	55.0%	55	32.2%
②	6	107	4.3	0	0.0%	1	0.9%	12	11.2%	51	47.7%	43	40.2%
③	6	48	4.4	0	0.0%	0	0.0%	4	8.3%	21	43.8%	23	47.9%

2023年度入学2年生（後期）

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答	①ほとんど達成 できなかった		②あまり達成 できなかった		③最低限 達成できた		④おおむね 達成できた		⑤十分 達成できた	
①	7	139	4.3	0	0.0%	1	0.7%	15	10.8%	70	50.4%	53	38.1%
②	2	41	4.3	0	0.0%	0	0.0%	4	9.8%	20	48.8%	17	41.5%
③	2	43	4.3	0	0.0%	0	0.0%	4	9.3%	23	53.5%	16	37.2%

2024年度学習の達成度自己評価（教養学科）

教養学科DP

- ①（専門的知識や技能）現代社会に求められる知識及び技能を活用する実践力と、情報を収集・分析・発信する情報活用能力を身につけている。
- ②（コミュニケーション能力）他者に共感し、コミュニケーションスキルを活かして行動する能力を身につけている。
- ③（地域・グローバル社会への理解）地域社会とグローバル社会への深い理解のうえに、広い視野に立った社会性を身につけている。

2024年度入学1年生（前期）

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答	①ほとんど達成 できなかった		②あまり達成 できなかった		③最低限 達成できた		④おおむね 達成できた		⑤十分 達成できた	
①	11	461	4.2	0	0.0%	2	0.4%	41	8.9%	270	58.6%	148	32.1%
②	2	87	4.2	0	0.0%	1	1.1%	8	9.2%	50	57.5%	28	32.2%
③	0	0	0.0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

2024年度入学1年生（後期）

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答	①ほとんど達成 できなかった		②あまり達成 できなかった		③最低限 達成できた		④おおむね 達成できた		⑤十分 達成できた	
①	13	304	4.2	0	0.0%	5	1.6%	23	7.6%	177	58.2%	99	32.6%
②	4	146	4.1	0	0.0%	0	0.0%	17	11.6%	93	63.7%	36	24.7%
③	0	0	0.0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

2023年度入学2年生（前期）

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答	①ほとんど達成 できなかった		②あまり達成 できなかった		③最低限 達成できた		④おおむね 達成できた		⑤十分 達成できた	
①	9	165	5.1	1	0.6%	1	0.6%	14	8.5%	117	70.9%	32	19.4%
②	2	71	4.1	0	0.0%	1	1.4%	4	5.6%	52	73.2%	14	19.7%
③	6	126	4.0	0	0.0%	2	1.6%	11	8.7%	92	73.0%	21	16.7%

2023年度入学2年生（後期）

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答	①ほとんど達成 できなかった		②あまり達成 できなかった		③最低限 達成できた		④おおむね 達成できた		⑤十分 達成できた	
①	10	95	4.2	0	0.0%	0	0.0%	8	8.4%	61	64.2%	26	27.4%
②	3	58	4.2	0	0.0%	0	0.0%	3	5.2%	42	72.4%	13	22.4%
③	5	31	4.1	0	0.0%	1	3.2%	0	0.0%	25	80.6%	5	16.1%

2024 年度授業評価アンケートの結果に基づき作成された学生カルテ(例示:2024 年度 2 年生分)

2024 年度前期授業評価 (2023 年入学 2 年)				Q1. 欠席回数					Q2. 講義要領					Q3. 予習・復習					Q4. 授業内容理解					Q5. 授業態度					Q20. 達成度 (自己評価)					
学籍番号	学生氏名	科目番号	科目名	①欠席なし	②1回	③2回	④3回	⑤4回以上	①全く聴んでいない	②あまり聴んでいない	③どちらともいえない	④おおむね聴んだ	⑤十分に聴んだ	①全くしていない	②あまりしていない	③どちらともいえない	④おおむねやった	⑤十分にやった	①全くできていない	②あまりできていない	③どちらともいえない	④おおむねできた	⑤十分にできた	①悪い	②どちらかというと悪い	③どちらともいえない	④どちらかというと良い	⑤良い	①ほとんど達成できなかった	②あまり達成できなかった	③どちらともいえない	④おおむね達成できた	⑤十分に達成できた	
		1101	保育内容（健康）の指導法	○					○					○					○						○								○	
		1104	教育課程・保育計画の意義と編成・評価		○				○					○					○						○								○	
		1107	理科指導法	○					○					○					○						○								○	
		1111	体育講義	○					○					○					○						○								○	
		1112	幼児と環境	○					○					○					○						○								○	
		1114	教育相談		○				○						○				○						○								○	
		1117	算数		○				○					○					○						○								○	
		1120	体育		○				○					○					○						○								○	
		1123	子どもの食と栄養	○					○					○					○						○								○	
		1125	生活	○					○					○					○						○								○	
		1128	子どもと音楽Ⅲ		○				○						○		○							○									○	
		1132	社会的養護Ⅱ	○					○					○					○						○								○	
		1135	保育の方法・技術	○					○					○					○						○								○	
		1137	保育所実習Ⅱ指導	○					○					○					○						○								○	
		1138	小学校教育実習指導	○					○					○					○						○								○	
		1139	幼児と人間関係		○				○					○					○						○								○	
		1142	外国語	○					○					○					○						○								○	
		1147	施設実習Ⅰ指導	○					○					○					○						○								○	
		1148	子ども家庭支援論		○				○					○					○						○								○	

2. 授業公開

■令和 6 年度授業公開についての「お知らせ」

令和 6 年 11 月 7 日

教員各位

FD・SD 委員長 大村 一光

令和 6 年度授業公開のお知らせとお願い

今年度も、下記の予定で授業公開期間を設けます。他の教員の授業から得られるもの、他の教員からの感想やアドバイスから得られるものは少なからずあると思います。また、より多くの教員が参加することで、授業改善に関する教員間のディスカッションの活性化や情報の共有・蓄積にもつながります。授業公開へのご理解・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

つきましては、教員メールボックス脇に用意した「後期時間割」に、公開を不可とする授業の部分のみ×印をつけていただくようお願いいたします。（一般教養科目等の同時開講科目は、お名前の部分に印の記入をお願いします。）

なお、授業参観の際は、実習その他による休講等があるため、事前に授業担当者へ参観希望である旨をお伝えいただければ幸いです。また、参観は、原則、授業開始時から終了時までとしますが、都合による中途参観や退出も可とします。

参観後は、「公開授業報告書」作成のため、12 月 27 日（金）までに、サイボウズと全教職員メールでお知らせする URL から、感想等をオンラインでご回答ください。

記

以上

令和 6 年度授業公開期間 11 月 25 日（月）～12 月 20 日（金）

【概要】

- ①上記の期間中に授業の参観ができます。90 分間に複数の授業を参観していただいても構いません。
- ②期間中は、「授業公開期間時間割」に条件が明示されていない限り、授業担当者の許可なく入退室できます。

【参観後】

- ①参観者は感想等をオンラインでご回答ください（公開授業報告書）。
- ②報告書は 1 授業につき 1 件の回答となります。
- ③報告書は取りまとめ次第公開いたします。

以上

■2024 年度「授業公開週間」参観記録フォーム

2024/10/23 8:37

2024年度「授業公開週間」参観記録 (11-12月実施)

2024年度「授業公開週間」参観記録 (11-12月実施)

* 必須

* このフォームでは名前の記録を行います、名前を入力してください。

1. 記入者（所属） *

- ☐ 1. 児童教育学科
- ☐ 2. 生活科学科
- ☐ 3. 教養学科
- ☐ 4. 非常勤講師
- ☐ 5. 事務職員
- ☐ 6. その他

2. 参観科目名 *

3. 参観科目の当日担当者名 *

4. (6) 参観日 *

5. (8) 参観時間 *

- ☐ a. 1・2限目
- ☐ b. 3・4限目
- ☐ c. 5・6限目
- ☐ d. 7・8限目
- ☐ e. 9・10限目

6. (9) 参観授業についての感想 *

このコンテンツは Microsoft によって作成または承認されたものではありません。送信したデータはフォームの所有者に送信されます。

令和6年度 授業公開週間について（報告）

○実施期間：令和6年11月25日(月)～12月20日(金)

○参観報告書提出者数

学科	人数	備考
児童教育学科	13	2科目参観1名
生活科学科	6	2科目参観1名
教養学科	7	3科目参観2名
合計	26	総提出数 32

○参観科目一覧<（ ）は参観者人数>

日本語表現法Ⅱ（3）	保育・教職実践演習（3）	ライフデザイン論Ⅱ（2）
保育内容 人間関係の指導法（2）	実践調理学実習（2）	介護過程Ⅳ（2）
ビジネスワーク（2）	デジタルビジネス概論（1）	情報処理論（1）
調理学実習Ⅰ（1）	子どもの理解と援助（1）	保育内容 表現の指導法（1）
アメリカ文学（1）	子どもと音楽Ⅱ（1）	教育の方法・技術（1）
生化学実験B（1）	メディア文化論（1）	キャリアデザインⅡ（1）
歴史学（1）	総合教養Ⅱ（1）	AIプログラミング（1）
図画工作指導法（1）	情報通信技術を活用した 教育の理論及び方法（1）	

○参観報告（内容）

授業公開期間中に授業参観をし、報告書を提出した教員の割合は、全体では58%（児教62%、生活40%、教養78%）であった。昨年度・一昨年度の結果は6割を超えており、令和3年度においては8割を超えていたことから、年々、授業参観及び報告書の提出が減少していることがわかる。

参観報告として多かったのは学習内容や指導法に関するものであった。学生の生活と結びつくよう工夫して提示された学習内容、学生の主体性や目的意識を高める活動や課題設定及び実践的な活動、ICT活用や豊富な資料など、参観した教員がすぐに取り入れられる発見が多く見られた。また、同学科の教員間の参観が活発に行われていた。自身の授業と比較し、科目による学生の様子の違いや、科目間の関連性や発展性について述べられており、教育課程全体を意識した授業づくりにつながるという意見が複数見られた。

このように多くのメリットがある授業公開がより活発に行われ、学生の学びに還元できるよう、今後の授業公開方法や時期、及びその後の協議や活用方法について検討が必要である。

3. FD・SD 研修会

■令和6年度第1回・第2回FD・SD研修会報告

令和6年度第1回FD研修会

研 修 題：「本学におけるBYOD利用の現状とその活用について」

期日&時間：9月5日（木） 13:30-15:30

会 場：全体会：402（30分）

分科会：405、402でそれぞれ開催（90分程度）

※ 当日は、ご自身のパソコンをご持参ください。

日 程：

一部・・・本学におけるBYOD利用に関するアンケート調査結果報告

（委員長） 30分程度

二部・・・「導入」グループ（勝久助教）

Classroomの基礎的な操作や学生登録、資料の提示法など

「活用」グループ（近藤教授、村田助教）

Classroomを利用されている方で、資料の詳細な作成や学生との共有など、日頃感じておられる困り事や活用法についての質問やアドバイスなど

※ 開催へ向けて以下の確認をお願いします。

・各自のパソコンでGoogleClassroomの動作確認

ID（短大メールアドレス）とパスワード（短大メールPW）で入れるか確認しておいてください

※ IDやPW及び入り方など不明の方は事務局教務課の濱田さんへ問い合わせください。

（その際パソコンをお持ちの上、問い合わせ願います）

参考：令和6年度第1回FD・SD研修会の「お知らせ」

9月FD研修会の開催案内

この度、下記の日程でFD研修会を開催することとしました。

研修題は、

「本学におけるBYOD利用の現状とその活用について」です。

（開催趣旨）

先般ご回答いただいたアンケート調査より、本年度、パソコン室やBYODを利用し、さまざまな方法で授業を展開されている様子が伺えました。

その一方で、本学で授業ツールとして利用しているTeamsやGoogleClassroomなど十分に利用できていない先生方も一定数みられます。

これらのことから、本研修では、まず本学の授業におけるBYODの現状についてアンケート調査結果をもとに報告します。

その後、現在多くの先生方が利用されているGoogleClassroomについて、教職員の方々の利用度に応じて「導入」グループと「活用」グループに分かれていただき、それぞれのグループで実践的に活用する方法について研修いただきたく本研修を企画いたしました。

期日&時間：9月5日（木） 13:30-15:30

会場 全体会：402（30分）、分科会：405と402でそれぞれ開催予定（90分程度）

当時は、ご自身のパソコンをご持参ください。

日程

- ・ 一部・・・本学におけるBYOD利用に関するアンケート調査結果報告（委員長）
30分程度

- ・ 二部・・・「導入」グループ（勝久先生担当予定）
Classroomの基礎的な操作や学生登録、資料の提示法など
「活用」グループ（近藤先生、村田先生担当予定）

Classroomを利用されている方で、資料の詳細な作成や学生との共有など、日頃感じておられる困り事や活用法についての質問やアドバイスなど

開催へ向けて以下の確認をお願いします。

- ・ 各自のパソコンでGoogleClassroomの動作確認

ID（短大メールアドレス）とパスワード（短大メールPW）で入れるか確認しておいてください

※ IDやPW及び入り方など不明の方は事務局教務課の濱田さんへ問い合わせください。

（その際パソコンをお持ちの上、問い合わせ願います）

- ・ 研修会後半のグループ分けについて、事前に調査いたします。

以下のフォームよりご回答ください。当日は、この結果をもとにグループ別に研修します。

<https://forms.gle/kf9oaNLWCCMRdpyv9>

1 年次（2 年次）授業でのBYOD利用状況

利用している（16名）、 利用していない（1 年次授業なし含む） （6 名）

● Classroom(9 名)

- ・ 授業時の利用（資料の提示、リアルタイムでの相互閲覧や意見交換、レポート提出など）
- ・ 授業での利用（オンデマンドでの授業実施）
- ・ 実習指導における資料の配布や連絡
- ・ ボランティア募集における資料の提示や申込み、事後報告、活動時の参考動画の掲載
- ・ 学生用ポートフォリオとしての活用

● Forms（5 名） Classroomとセットで実施するケースが多い

- ・ 出席確認を含めた質問、要望の収集
- ・ 小テスト、期末テストでの利用

● Teams(5 名)

- ・ 課題の提示に対するフィードバック
- ・ 授業内容の確認

● Mail（1 名）

- ・ 指導案などの提出

UNIPAの利用

	全体	児教	生活	教養
よく利用	36.4%	22.2%	37.5%	60.0%
たまに利用	59.1%	66.7%	62.5%	40.0%
ほとんど利用なし	4.5%	11.1%	0.0%	0.0%

- （利用内容）
- ・ 学生全体への諸連絡
 - ・ 特定学生への連絡（Classroomではできない）
 - ・ 授業資料の展開、課題提示など
 - ・ 追試、再試の課題提示
- （メリット）
- ・ 授業単位や個別での連絡が可能
 - ・ 送ることで証拠になる
- （デメリット）
- ・ 一方通行で学生からの返信もできない
 - ・ スマホでは閲覧確認が反映されない
 - ・ 見ていない学生が多い

- ・ 学生への連絡手段として多くの教員が利用
- ・ 一斉連絡や個別連絡など可能であるが、一方通行
- ・ 学生が閲覧したかどうかの確認が取れない場合がある（スマホ）

Teamsの利用

	全体	児教	生活	教養
よく利用	36.4%	55.6%	25.0%	20.0%
たまに利用	45.5%	44.4%	50.0%	40.0%
ほとんど利用なし	18.2%	0.0%	25.0%	40.0%

- （利用内容）
- ・ 授業での利用（資料、課題）
 - ・ チャットの利用（個人やグループ）
 - ・ 授業時の共通作業の場として利用
- （メリット）
- ・ LINE感覚でチャットできるところ
 - ・ 以前作成した資料のレイアウトが崩れない
 - ・ 学生通しの意見を共有できる
- （デメリット）
- ・ 機能の活用がやや複雑
 - ・ 1年生に対しては使用していない（食栄）

- ・ 児童教育学科での利用度が高い
- ・ 生活科学学科は移行期？
- ・ 個別、グループなどへの連絡がLINE感覚でできる
- ・ 学生との資料の共有など少し複雑な部分がある

- ・見ていない学生がいる
- ・クラスの作成法などよくわからない
- ・チームを作成していない授業の受講者からチャットが届くことがある

Classroomの利用

	全体	児教	生活	教養
よく利用	46.2%	44.4%	37.5%	60.0%
たまに利用	15.4%	11.1%	12.5%	20.0%
ほとんど利用なし	38.5%	44.4%	50.0%	20.0%

- (利用内容)
- ・授業での利用（資料の提示、課題）
 - ・クラス、ホーム活動で利用
 - ・オンデマンド授業の実施
- (メリット)
- ・Teamsと比較して操作など簡単
 - ・課題提出が楽
 - ・学生の進捗状況が確認でき個別指導ができる
- (デメリット)
- ・個別連絡ができない

- ・Teamsで崩れなかった資料レイアウトが崩れる（解決法は？）
- ・現状不慣れのため、経験値を上げる
- ・機能的なバグがある
- ・提出されたレポートの見方がよくわからない
- ・資料をアップしても紙媒体が欲しいと学生が言うてくる
- ・Classroomに入れない

- ・教養学科での利用度が高い
- ・児教、生活では二極化傾向がある
- ・学科により導入に差があるため活用されている教員と苦戦している教員がみられる
- ・Teamsよりは取扱いが簡単（個人的意見）
- ・小学校などの現場でも利用されている

その他、情報関連に関する意見

- ・ユニバ、teams、classroom、カイケツ君etc...学生とやり取りをするツールが散在しており、学生も混乱している。さらに業務上でサイボウズ、xisionとあり、その都度それらの操作（メリット、デメリット）を理解する必要がある。総括的にできるツールを1、2個に絞ってもらえると教員、学生相互の齟齬もなくなるのではないかと（類似する意見が数件あり）
- ・現状、スマホでも対応が可能であるためスマホに頼る（課題などを作成する上ではPCの方が望ましいが・・・）

9月FD・SD研修会 事後報告書



FD研修会に対する意見を集約すると以下のようにまとめられる。

初心者向けの講話については、普段利用していない教職員からは、初めて操作して多くの機能がありさまざまなシチュエーションで利用できることが理解でした。これらを活かしながら今後の授業などに活かしていきたいとの意見が多くみられた。

また、今後も定期的にこのような講習会を開催していただきたい旨の意見も多くみられた。一方、アドバンス(利用頻度の多いグループ)については、これまで知らなかった方法など、詳細に聞くことができ大変参考になったなど、こちらも好意的な意見が多くみられた。

以下、事後アンケート意見からピックアップしたもの

- ・ 実際に授業をすることがないので、活用することはないと思っておりましたが、お話を伺って様々なことができると知りました。これから活用できればと思います。分かりやすい資料もありありがとうございました。
- ・ 参加して本当に良かったと思います。Googleclassroomは少し使っていますが、細かいことまでは分からず、全く使いこなしていなかったのですが、疑問に思っていたことがすべて解決できました。

- 活用グループに参加しましたが、クラスルームへ学生がアップした課題を一括ダウンロードする方法（グーグルドライブを通して）を新たに知ることができ良かったです。後期から生かしていきたいです。ありがとうございました。
- 実際に使っている人の話を聞くことで、自分がうまく出来ていなかったことの解決策が分かったこと、さらに便利な使い方が出来ることが知れたことなど、実践的に役立つ内容で良かった。

2024 年度 第 2 回 FD・SD 研修会 「多様な学生への対応」

1. 日時 2025 年 3 月 6 日（木）13:30－15:00
2. 場所 401 教室
3. 講師 篠原美穂 講師（児童教育学科）
4. 研修内容

第 1 部 篠原 美穂 講師による講演

「多様な学生への対応 ―高等教育における学びのユニバーサルデザイン―」

本学の合理的配慮・修学支援の状況や課題、学びのユニバーサルデザイン（UDL）、学生指導の実践例についてお話をいただいた。

第 2 部 グループディスカッション

「ハンディキャップが生じにくい教育環境づくりのために今していること／できそうなこと」のトピックについて、5 人グループでディスカッションを行った。職員からは学生対応や今後導入できそうな伝達方法の提案、教員からは困難な場面や今行なっている対応、考え得る対策などについての共有がなされた。



5. 研修後のアンケート回答内容

第 1 部 講演に関して

本学の学生の現状、学びのユニバーサルデザイン、実践例を学び、日頃の授業や学生対応に活かしたいという意見が多く見られた。また、普段自分なりに行っていた対応が合っているか確認したり、そのほかの対応方法を学んだりする機会となったようである。

大学の授業のユニバーサルデザインについて考えるきっかけになり、大変感謝したいです

ご講演ありがとうございました。たいへん参考になりました。ともすれば「障がい」にばかり目が行きがちなテーマ設定の中で、ユニバーサルデザインの視点を提示してくださったことで、短大の教育の在り方そのものについて考えるきっかけをいただけたと思います。グループワークの苦手な学生に対する対応は、将来教師・保育者として同僚や保護者・地域住民等と意見調整や説明をしなければいけないという部分と、学生の特性にどう対応すべきかという部分とで私も一番悩むところです。何かの機会に篠原先生と意見交換できたらと思ったところでした。
参考になりました。
とても重要な内容で、大変勉強になりました。学生（学ぶ人）の立場に立つことを意識し、多様な方法を工夫して取り組んでいきたいと思いました。
改めて、まずは私たちが学びのユニバーサルデザインを理解することが学生への支援につながるという認識を持つことが必要と感じました。学生とのコミュニケーション、授業に活かしていきたいです。
勉強になりました。視野がひろがりました。
授業に関する色々な工夫について学べて良かったです。
「多様な学生への対応」について理解していないことばかりだったので、大変勉強になった。職員の立場でできることをあらためて検討する良い機会をいただいたと思っています。篠原先生、お忙しい中貴重なお話をありがとうございました。
本学において配慮を要する学生に苦慮している内容がよく把握できました。自分が学生に情報発信する際は、UD フォンとや字の色、文章のシンプル化に留意したいと思います。
合理的配慮と UD の違いや課題について知ることができ非常勉強になりました。
多様な学生への対応について、事務職員として学生への接し方を学ぶことが出来、大変勉強になった。
マイクやスピーカーの性能なのか、聞き取りづらい部分があった。
日頃自分なりに実施・工夫している授業について、熟考する機会を得たと感じています。これまでの蓄積において効果的だと導き出した実施や工夫ではあるものの、UDL としてどのように効果的なのか等を考えてみたいと思っています。
支援を待つ学生ではなく、環境を生かして学べる学生を育てる、この部分が難しいなぁと思った次第です。入学してくる学生が何を求める層なのかということも少しは関係してくるのかなと、入試とも関係してくる部分なので、当短大がどのような学生を求めているかに直結するのかな（でもそうも言ってもらえない事情もありますし）。
改めて「学生の立場に立つ」ということを考えるきっかけとなりました。何かしてあげたいと思うことも大切ですが、特別扱いにならないような学生対応を心掛けたいと思いました。貴重な講演をありがとうございました。
ユニバーサルデザインの重要性がよく分かった。学生の学びにおけるインプット、アウトプット、モチベーションについて、どんなオプションを創れば学びやすくなるのか工夫していきたい。
UD のイメージは出来ていても、実際にそれを自分の授業に落とし込むとなると、それが正しいのか、適切なのかなど分からないことが多かった。しかし、今回のお話で篠原先生がご自身の実践例を提示してくださったので、これは間違っていない確認や、こんなやり方もあるのかという学びにつながり、有意義なものになりました。
多様な学生への対応について、非常に数多くの配慮を考えなくてはならないことを改めて学ぶことができた。
貴重なお話でした
バリアフリーとユニバーサルデザインの違いについて理解の促進につながるものでした。ありがとうございました。
学びのユニバーサルデザインについて知ることができて良かったです。
・考え方と具体例や道具を合わせて提示していただけたので、非常に分かりやすい講演でした。ありがとうございました。

・到達目標を変える（下げる）というわけではなく、オプションを増やすという説明が分かりやすかった。 ・発達障害の特性をもつ学生の特徴が、われわれ教職員含む一般成人でも持ちうる特徴であるという自覚が大事であることがわかった。 ・UD フォントは来年度のスライドに反映させようと思った。 ・授業の構成や学生指導で意識していることなどは、自分が実践していることと同様だったことで、自分の方法に関して後押しをもらえたように感じられた。 ・教職側のストレスマネジメントとしても有効な接し方、考え方が示されていて、篠原先生ならではの伝え方だと思いました。
具体的な実践例が盛り込まれ、今後に役にたつ内容ばかりでした。
「合理的配慮の申し出をしてはいないが、就学困難者が多数いる」というのは普段の学生対応の中で感じていたことだったので、具体的な対応が聞けてよかったです。窓口業務に活かしたいと思います。
多様な学生への対応は、個別の配慮だけでなく、学習環境を調整することによって、ハンディキャップのない学習環境を作ることが重要であると学びました。本学の合理的配慮が必要な学生の現状や発達障害の特性を理解し、まずはできることから学習環境を整えたいと考えています。篠原先生の実践例を参考に、レポート提出方法に選択肢を設けることなど、実践を重ねていきたいです。
非常に有意義な時間を過ごさせていただきました。 多様な学生への対応は苦慮するところで、配慮と特別扱いの区別は難しいと常日頃から感じております。 担当教員の指示の下、学生が安心して学生生活を送れるような手助けができればと思います。

第2部 グループディスカッションに関して

学科を超えたグループ編成を行ったため、普段コミュニケーションを取らないメンバーで意見交換ができたこと自体が良い機会であったという意見が複数見られた。ユニパや ICT の活用の仕方、UD フォントの使用など、具体的な対応策も話に出たようである。

グループ編成について、人数が適切であったという意見が出た一方、学科や実習関連の編成にすると違う視点での話し合いができるという意見も見られた。発言が少ない教員もいたようで、次回は研修会運営側の声掛け等の対策も必要であると考える。

さまざま先生の授業の実践に基づくお話が聞けたことが良かった。また、意見を交換し、学生の主体性の向上について真剣に議論することができて良かった
篠原先生への感想にも書きましたが、障がいへの対応だけでなく、「理解するとはどういうことか」「社会に求められる資質・能力をどう捉えるか」という短大教育の本質に関わる議論ができたと思います。今回はランダムでのグループ編成でしたが、学科・専攻・コース単位や、学科を超えた実習担当教員同士、実習担当教員と支援課職員というようなグループ編成もありえるかなと思いました。
最初まとめてにくいテーマかなと思いましたが、みなさんご意見をたくさん仰ったのですごいなと思いました。
先生方のご意見や、難しいと思われる事などを伺うことができてよかったです。
他の班のディスカッションを共有することで多くの学びがありました。
みなさんの取り組みをうかがうことができ、勉強になりました。
先生方の日頃されている工夫が知れたことや、学生や教育への想いが聞けて良かったです。

学生の対応の中での困りごとやユニバーサルデザイン型の支援について、各分野の職員と考えることができた。
事前に上大藪先生が本学に現状を説明していただきましたが、とても参考になりました。 （ユニパでの連絡は、情報が埋もれていくため、1 か月前・2 週間前・直前の3 段階にすること、証明書等の記載例、掲示文書の分かりやすさや色など） グループディスカッションでは、特にユニパでの発信方法について、学生は携帯でメッセージを確認するため、文章にせず、シンプルに発信するようにするとよいとまとまりました。 意見にもありましたが、配慮願が必要な学生に対し、どのような配慮をしているか知りたいと同様に感じました。
文書フォントを UD に移行していくなどの確認ができ、有意義なディスカッションが出来ました。
事務職員の出来るユニバーサルデザインについての検討を行ったが、自分の知りえなかったことに気づきこれからの学生への対応に役立てていきたい。
課の壁を越えランダムにグループを作りディスカッションすることは、とても良いコミュニケーションの機会だと感じた。
様々な考えに触れることができ、有益でした。
もっと他の教員が意見を言ってほしかったです。
先生方が日頃からどのような授業やフィードバックをしているかとても学ぶことが多く、有意義なディスカッションとなり、今回のグループの先生方と話がしやすかったです。先生方の取り組みを知ること、自分自身にも繋がるものがありました。
ディスカッションの中身もさることながら、同じテーマで話をすることで教職員間のコミュニケーションの機会が持てたことは有意義だった。
自由に困りごとやご自身の対応策などを話し合うことが出来て、面白かったです。他班の全く異なるアプローチや視点も参考になりました。
授業においてレスポンスシートを使い、感想や質問を求め、その回答をすることにより、個々の学生に寄り添った支援を行っている状況を把握することができた。
うちのグループはとっても活発な議論であった
明確に、こうすれば解決するという答えが出なくても、話し合いを通して困難を共有することや情報交換をすることが大切だと思います。
個人でもできるユニバーサルデザインについて意見交換をする事ができて良かったです。今後の業務遂行に大いに役立つ情報を得ることができました。
・適度な時間と内容で話しやすかったと思います。 ・グループ内でも他グループでも、学内でのサポートと教育（生きる・働く力を身につけさせる）との間で着地点を見つけるのが難しいと感じられているようだった。これらの対応の幅がある程度あるのも、社会のあり方の一端であり、実践教育とも言えるのではないかと考えた。 ・「グループワークで困っている学生を助けてくれる学生がいる」というのは本学の良い点であると認識できた。
それぞれの困り事に対してグループでそれぞれの視点から話し合いができたことは大変有意義な時間となりました。
UD フォントの話や、配慮願を出している学生の情報共有等、業務の中で「こうしたらもっと良くなる」と感じていることが各人あるということが分かったので、話し合いの場を設けていただけて良かったです。特別扱いや過剰な学生サービスではなくすべての学生が同じように修学できる環境を設けるための「配慮」、そして社会に出る前の教育機関としての対応を身近なところから始めようと思いました。

グループディスカッションでは、実際の困りごとを共有することで、配慮を受けていない学生の不満を知り、環境調整が早急に必要であると感じました。ICTを活用したり、学生が集中しやすい授業資料の作成、また学生への伝え方も工夫していきたいです。

こうした環境を最大限に活用して学べる学生を育成するため、先生方と情報を共有しながら取り組んでいきたいと思います。

先生方の様々なご意見を伺い、勉強になりました。

考え方や対応も様々で答えは一つではないと感じました。

人数が適切で意見交換がしやすかったのではないかと思います。

あとかき

本年度のFD・SD活動を通じて、教職員一人ひとりの専門性の向上と、組織全体の教育力の底上げに向けた取り組みを推進できたのではないかと感じています。授業評価アンケートや授業公開、FD・SD研修会など、計画を立て実施し、そこで終わることなく、その後の評価をどう改善に活かすのか、2023年度から導入したティーチング・ポートフォリオの作成を含め、これまでを振り返るきっかけ作りの年度となったのではないのでしょうか。

2020年からのコロナ禍を経た新たな教育や業務のあり方が模索される中で、対話と協働を大切にした継続的な学びの機会の提供は、大学全体の活性化にもつながるものであると再認識いたしました。

一方で、アンケートの回答率低下や授業公開の参加者減少、ティーチング・ポートフォリオの活用のはらつきなど、浮かび上がった課題についても真摯に受け止め、改善に向けて取り組んで参ります。

ご多忙の中、各活動にご参加いただいた教職員の皆さま、そして運営にご尽力いただいた関係者の皆さまに、心より感謝申し上げます。活動を通じて得られた気づきや意見は、次年度以降の企画や運営にも反映させていきたいと考えております。

引き続き、FD・SD活動が教職協働のもとで発展していくよう努めてまいりますので、今後ともご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

鹿児島女子短期大学 FD・SD 委員会
2025年度委員長 改元 香